

●角田市水道ビジョン策定（案）に対するパブリックコメント回答

No.	意見の内容	市の考え方
1	<p>角田市水道ビジョン（案）（以下「本ビジョン」という。）を一通り読ませていただきましたが、専門用語もあり、質問・意見する前に整理するのが難しいと思いましたので、パブリックコメントで意見を求めるのは、はっきり言って酷です。市において色々な計画を策定する場合には、条例の定めでパブリックコメントを市民に求めるのは、わかりますが、水道事業は、専門的知識が無いと意見を述べるのは、中々出来ないと思われれます。パブリックコメントを実施するのは、構いませんが、角田市の今後10年間を見据えた本ビジョンなので、市民に対して説明会を開催する（市民がどのくらい参加するかは何とも言えませんが？）のが、望ましいと思いたしますがいかがなものでしょうか。</p>	<p>市民の皆様へ水道ビジョンに対しての意見をいただくため、角田市ホームページへの掲載や、各自治センター及び上下水道事業所での閲覧を行い、市民の皆様へお知らせしたところであります。質問等があった場合は、その都度対応することとしておりましたが、専門的な用語があり分かりづらいとのご指摘につきましては、注釈を掲載いたします。また、今後、地域の水事情に精通した学識経験者や水道利用者である市民等の第三者の意見を伺う機会を設けることを検討するとともに、出前講座などを通じて説明させていただきます。</p>
2	<p>P15 3.1.2 使用水量の変化  「今後一人当たりの使用量は節水意識のさらなる進展および人口減少、工業用水量の動向により使用水量の増減が大きくなることが予想され、料金収入の増減による経営状況への影響とあります。」と述べておりますが、市の人口減少ははっきりしています。心配なので、具体的な対策を示していただきたい。  ちょっと気になることがあります。今、水道水を飲まないでペットボトルの水を飲む人が、昔と比べて多いと思いますが、水道水離れでどの位の給水量に値するのか気になります。（ペットボトルを飲む人が全員水道水を飲んだと仮定した場合、供給量に影響が大いに有るかと思ったので。）人口減少で給水量が減るのは当たり前です。市は、営利目的出来ない団体ですが、水道事業は、収益的収入で賄っているのであれば、水のPR・推進は必要不可欠だと思いたしたので、経営安定のためにも効率性を考慮することを前提に、あらゆる方策を示していただきたい。</p>	<p>人口減少による給水量の減少が見込まれる中、水道事業の健全な経営を進めていく方策としては、第4章 実現方策（P26）に示したとおりです。</p>

●角田市水道ビジョン策定（案）に対するパブリックコメント回答

No.	意見の内容	市の考え方
3	<p>P17 3.1.5 給水管の安全性</p> <p>「鉛製給水管は人体に悪影響を及ぼす可能性がある」とあるならば、判明する前に今でも更新するべきではないのですか。判明してからでは、それこそ人命にかかる事ですので、判明してからでは遅いのではないのですか。</p>	<p>鉛給水管は水道事業の初期の頃に使用されていたため、残存している場所を特定できない状況であり、水道管の更新時に鉛給水管の使用が判明した場合は、随時更新を行っていきます。</p>
4	<p>P21 3.3.1 組織体制の見直し</p> <p>「近年、水道システムの高度化が進み、技術レベルが向上している中、精通した技術者の多くが退職することとなるとあります。」民間の技術者（特に若年者）を採用するなどの対策が急務だと思います。</p> <p>現職員のレベル向上にも限界があると思いますので、ここは予算を考えず実行すべきと思います。</p>	<p>角田市では、学生、民間企業を問わず、毎年技術職の求人を行っておりますが、思うように応募者が集まらないことから、角田市独自の求人ポスターを作成するなどPR活動を行っております。また、水道施設の建設・維持管理には専門の技術が欠かせないため、職員同士の技術の継承に努めてまいります。</p>
5	<p>P21 3.3.2 水供給の効率化</p> <p>「10%以上の水が漏水したことを示す無効水量となっている。」とありますが、なぜ、10%位はやむを得ない事の認識なのかと思いますが、やはり非効率的であるならば、徹底的に調査すべきだと思います。本ビジョンに掲げる以前の問題だと思います。</p>	<p>漏水調査は「角田地区」「横倉・桜地区」「北郷・西根地区」「東根・藤尾・枝野地区」の4つのエリアに分け、毎年ローテーションで行っており、漏水箇所が判明したら、その都度修繕を行っております。また、老朽化した水道管を計画的に地震に強い耐震管に更新し、漏水の減少に努めてまいります。</p>
6	<p>P22 3.3.3 サービスの充実</p> <p>「啓蒙活動としては、小学校の授業の一環として、水道施設の見学会等」とありますが、未来の子供たちに学んでいただくのは、理解できますが、一般の方いや全市民に働き掛けが必要だと思いますが、是非検討していただきたい。後で述べる基本方針に「安全でおいしい水の供給」と目標に掲げているのであれば、これを全面に出して、市民に知っていただき水の供給を高めることも必要だと思いますので、ご検討願います。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染状況を踏まえたうえで、全市民向けの施設見学会を検討させていただきます。</p>

●角田市水道ビジョン策定（案）に対するパブリックコメント回答

No.	意見の内容	市の考え方
7	<p>P39 5.5 持続可能な事業運営のために  「今後、給水収益の減少が進む一方で事業の効率化が進まない場合、料金回収率が悪化し、経営の安定化が損なわれる恐れがあります・・・途中略・・・公正で適正な料金負担の確保のための料金改定等についても検討を行っていきます。」と述べておりますが、料金改定（値上げ）も視野に入れておりますが、あくまでも人口減少等による給水収益の減少により料金改定だと言うのはわかります。老朽化した配水管網の整備および耐震工事事業のために料金改定するのは反対です。どうしても財源が必要であれば、一般会計の「ふるさと納税等」を使ってはできないのですか。そもそも水道事業は、市の事業ですので、税金を使用しても良いと思います。ご検討よろしくお願いします。</p>	<p>水道事業につきましては、原則として受益の対価となる料金収入をもって経営することとされており、水道の恩恵を受けていない方も含め広く負担する税金の活用は、一部の例外を除きできません。これまでも市の一般会計から、国が示す一定基準のもと、補助金を受けているほか、基幹配水管等を耐震化するための経費の一部について出資金を受けています。お尋ねの配水管の整備や耐震化事業も、その一部について補助金等による財源確保を見込んでいますが、残りは水道料金等の受益者負担を前提に経営する必要があります。</p> <p>水道ビジョンでは、事業の効率化のための各種方策を掲げており、できる限り低廉な料金を維持できるよう努めます。また、ふるさと納税については、寄附者の意向に沿った使い方の観点、前に述べた経費負担の原則の観点から現時点ではその活用は難しいと考えています。</p>
8	<p>P41～P44 参考資料 業務指標による現状と目標値  「業務指標と計算式」の語句を殆ど勉強不足で理解できませんでしたので、ただ読んだだけでは専門家でもあるまいし、失礼な話になりますが、分かんなくて当然だと思いませんか。こんな質問してすみません。でも、読んでわかるのなら先生は必要ないと思いますので、ここは是非市民に対する説明会を開催等して、皆が納得していただく取り組みをして見てはいかがでしょうか。</p>	<p>水道ビジョンの作成は、厚生労働省が策定した「水道事業ビジョン作成の手引き」に基づいて作成しており、「業務指標」についても必須の検討事項となっております。しかしながら、一般の方には専門的な指標でなじみの無い言葉と存じ上げますので、指標の内容について解説を追加いたします。</p>

●角田市水道ビジョン策定（案）に対するパブリックコメント回答

No.	意見の内容	市の考え方
9	<p>その他として質問です。本ビジョンの項目に載せてないようですが、気になりましたのでお尋ねいたします。水道料金未納分（料金延滞）の額がいくらあるのか存じませんが、当然未納分があると思いますので、その対策を本ビジョンに示す必要が無いのですか。本ビジョンでなく別途何らかの施策で対応しているのであれば、それは何なのかご教示賜れば幸いです。</p>	<p>水道料金の未納対策については、公平性の観点から厳正に対応してきているところです。具体的には、一定期間の滞納がある使用者に対しては、停水予告を行うとともに連絡等がない使用者について停水を行うことや夜間相談の機会を設けるなど未納額増加の抑制を図っています。ご意見のとおり本水道ビジョンへ対策を示す必要があると考えましたので、以下の通り記載を追加します。</p> <p>P32 4.5.4 実現方策3-4 経営基盤の強化 「水道料金収入の適切な確保のため、未納対策としてコンビニやスマホ納入を導入していますが、新たな納入方法を検討し、納入環境の整備を図るとともに、納入催告の強化や適正な停水執行などにより収入率の向上を図ります。」</p>
10	<p>3ページ 1.2 計画期間 全体的に具体性に欠ける計画と見えます。 ある程度はやむを得ないと思いますが、50年先、100年先を見据えた水道の理想像も明示すべきと思います。はじめに（2ページ）の後段にも「水道の理想像の明示」とあり、この理想像の下に水道ビジョンがあるものと思います。 角田市の第6次長期総合計画では、2065年には人口が11,577人と記載されているようですが、このような中でも50年先も安心・安全な水を届けるための、今後の10年計画だと思えます。</p>	<p>今回策定する水道ビジョンは、時代や環境の変化に対応しつつ将来にわたって安全・安心な水道を供給するという水道の理想像を「安全・強靱・持続」という3つの観点からその方策を検討した上で、副題である「未来へつなぐ安全・安心なかくだの水道」という表現に込めています。 今後10年間については、その着手期間としての実現方策を示したもので、例えば10年後の業務指標の目標値については、少なくとも現状維持またはより高い値になるよう設定しています。</p>
11	<p>7ページ 2.2 水道事務の沿革 角田市の水道は水道ができる以前は、飲料水が不足し水質も悪く毎年伝染病が発生し多額の伝染病の予防費が支出されていました。先人の苦労は並大抵のものだったことと思います。 当時の最大の課題は水道だったことが伺えます。市民に水道を理解していただくためにも歴史的背景、衛生的背景も記載すべきだと思います。</p>	<p>水道ビジョンの作成は、厚生労働省が策定した「水道事業ビジョン作成の手引き」に基づき作成しており、今後10年間の水道事業の在り方を示すことを目的としていることから、あらためて歴史的背景までは掲載いたしませんでした。 角田市の水道の歴史的資料といたしましては、角田市上水道事業50周年記念誌「角田上水道歷程」等がございますので、節目をきっかけに更新してまいります。</p>

●角田市水道ビジョン策定（案）に対するパブリックコメント回答

No.	意見の内容	市の考え方
12	<p>29ページ 4.4.1 実施方策2-1 管路の更新・耐震化の推進            今回のビジョンは10年の計画ですが、管路の法定耐用年数は40年ですが、管路を今後10年間で更新したものは、完成した時の40年後には人口は半分以下になります。給水収益も同様と思えます。            そのためにも、現在耐用年数を迎えている管路延長、今回のビジョン期間中に耐用年数を迎える管路延長を明示し、1年間の更新延長を明示するなど具体的な計画を示して市民もわかりやすい計画にすべきと思います。            今後の急激な人口減少時代に管路だけではありませんが、管路・施設の更新をどのようにするのか具体的に示す必要があると思えます。</p>	<p>今回策定の水道ビジョンにおいて管路の更新については、全体の延長や過去の実績をもとに毎年の更新延長の目標を掲げています。また、重要給水拠点となる路線の管路等の優先度を踏まえた管路更新計画としています。            管路の耐用年数等を考慮した上での具体的な計画を示すべきというのはご指摘のとおりですので、今後できるだけ早期に精緻な台帳を整備し、適切な資産管理（アセットマネジメント）の手法を確立し、財源の見通しも踏まえたより実効性のある効率的な更新計画を示すことができるよう進めていきます。</p>
13	<p>39ページ 5.5 持続可能な事業運営のために            開かれた行政運営・広報の充実を加える。            第6次長期総合計画の第7章、行政運営 第1節 市民に開かれた行政を目指しての項目がありますが、角田市の水道に関してはこれまでは不十分と思われます。            特に、水道料金の決定に関しては市民の参加する機会はありません。今後の水道経営を進めていく中でも市民の理解が不可欠です。そのため、仮称「水道審議会」と行かなくても何らかの市民参加の機会を作るべきだと思います。今後の水道ビジョン策定の過程でも市民参加の機会はありませんでした。持続可能な事業運営には市民の理解（市民力）が不可欠です。</p>	<p>No.1の回答と同じ</p>